

テレビジョン技術の父「高柳健次郎」を称えて

－高柳記念未来技術創造館－

日本最初のテレビジョン(以下テレビと略)放送は1953(昭和28)年2月、NHK東京放送局から始まった。日本のテレビ技術の歴史で忘れてはならないのは高柳健次郎の活躍である。静岡大学浜松キャンパスには高柳健次郎の功績を紹介する「高柳記念未来技術創造館」(写真1)が開設されている。

■高柳健次郎のテレビ研究

高柳健次郎は1899(明治32)年静岡県浜名郡(現:浜松市)に生まれた。東京高等工業学校(後の東京工業大学、現東京科学大学)を卒業後、工業高校の教師になったが新設の浜松高等工業学校(現:静岡大学工学部)に助教授として迎えられ、希望の「無線遠視法(テレビ)」の研究を始めた。

■全電子式テレビの開発

1926(大正15)年12月、機械式円盤による「イ」の字の映像信号を世界で初めてブラウン管上に表示することに成功した(写真2)。1935年には、米ツヴォルキン博士が考案した電子撮像管アイコノスコープを独自に改良したものをを用いて屋外風景の撮像に成功し、世界初の全電子式テレビを実現した。写真3は電子式テレビカメラと使用したアイコノスコープである。

■幻となった東京オリンピックのテレビ放送

1940(昭和15)年に予定されていた東京オリンピックをテレビ放送する技術開発のため、日本放送協会(NHK)に出向しその開発の指揮をとった。しかし、第2次世界大戦の勃発でオリンピックの開催は返上され、テレビの開発も中止となった。

高柳は1981(昭和56)年に文化勲章を受章、1990年に91歳で生涯を閉じた。没後、2009年には米国電気電子学会(IEEE)から「電子式テレビ開発」のマイルストーン賞を受賞した。また、2011年には電気学会より「でんきの礎」として顕彰されている。

■高柳門下生の活躍

門下生の堀内平八郎と^{ひろ ま}晝馬輝夫は1953(昭和28)年、浜松テレビ(株)(現:浜松ホトニクス)を起業した。浜松ホトニクスは「光技術」で最先端の会社に成長し、カミオカンデに採用された光電子増倍管は小柴昌俊博士のノーベル賞受賞に貢献した。

所在地：静岡県浜松市中央区城北3丁目5-1
開館時間：10:00-16:00
閉館日：大学の休日(土日祝、年末年始等)
観覧料：無料
アクセス：JR浜松駅北口バスターミナル15、16番、バスで約15分



[写真1] 高柳記念未来技術創造館 (2024年5月筆者撮影)



[写真2] ブラウン管に表示された「イ」の字と高柳健次郎
出典： <https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/stories/kenjiro-takayanagi>



[写真3] 電子式テレビカメラとアイコノスコープ
出典：高柳記念未来技術創造館、
<https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/stories/kenjiro-takayanagi>

(渡辺治男)